

第14回資源循環型肉牛生産シンポジウム2017  
開催企画書

開催趣旨：

わが国の肉牛生産は、平成20年から始まった輸入飼料価格の高止まりや子牛不足による素牛価格高騰などの厳しい状況にさらされ、肥育牛出荷頭数の減少が続いている。このような国産牛肉供給量の減少を反映し、枝肉価格は上昇しているが、それを牽引しているのは外国人観光客の増加に伴うインバウンド需要の増大や堅調な輸出需要などであり、需要の3割を占める家計消費は減少傾向が続いている。

近年、牛肉に対する消費者のニーズは多様化しつつあり、霜降り牛肉だけでなく赤肉主体の牛肉も好まれるようになりつつある。従来、赤肉生産はホルスタイン種や和牛交雑種が主体だったが、マイナー品種が持つ様々な特性、例えば「放牧適性が高い」、「農産副産物や自給飼料の利用性が高い」、「乳用種の中でも肉質が優れている」などの特性を最大限に活用出来れば、多様な消費者ニーズに対応した安全かつおいしい牛肉生産が可能となり、牛肉の家計消費の維持、向上が期待でき、今後の肉牛産業の発展につながるものと考えられる。

本シンポジウムは資源循環型肉牛生産方式の普及を目的とし、環境リサイクル肉牛協議会、北海道アングス牛振興協議会および北海道短角牛振興協議会が共催する。シンポジウム開催14回目に当たり、マイナー(希少)品種の赤身生産と流通による安全かつおいしい牛肉生産の可能性と展望について、生産者、消費者、流通業界および大学・研究機関など多角的立場からの意見交換を行い、資源循環型肉牛生産の意義浸透を図りたい。

シンポジウムテーマ：「マイナー(希少)品種の赤身生産と流通」

日 時：平成28年11月9日(木) 13:00-17:00

会 場：とちプラザ(帯広市)2階 視聴覚室

共 催：環境リサイクル肉牛協議会、北海道アングス牛振興協議会、北海道短角牛振興協議会

後 援：帯広畜産大学、北海道十勝総合振興局、帯広市、十勝農業協同組合連合会、北海道総合研究機構畜産試験場、北海道酪農畜産協会、北海道オーガニックビーフ振興協議会、芽室町農業協同組合、NHK帯広放送局、北海道新聞帯広支社、日本農業新聞北海道支所、十勝毎日新聞社

参加費： 無料

内 容：（13:00-17:00）

1. 基調講演 「日本の赤身牛肉生産とその流通」  
弘前大学農学生命科学部 松崎 正敏教授
2. 話題提供 1. 「釧路の風土に適したアンガス種にほれて」  
榛澤牧場（釧路市） 榛澤 保彦代表
- 話題提供 2. 「ジャジー牛肥育の取組」  
（株）関谷牧場（新得町）関谷 達司代表取締役
- 話題提供 3. 「希少肉専用種の流通を手掛けて」  
パルシステム生活協同組合連合会  
産直商品部 江川 淳 部長
- 話題提供 4. 「‘最新’赤身牛肉の評価基準」  
帯広畜産大学 口田 圭吾教授
3. パネルディスカッション パネラー：講演者、消費者代表
4. 意見交換会 eビーふ 試食会（18:00～）ホテルグランテラス帯広  
食味試験（17:30～18:00）帯広畜産大学 口田研究室主催  
（希望者のみ 参加費別途¥3,500）
5. 現地検討会：11月10日（金）午前中（希望者のみ）

参加対象者および参加予定人数：

道内肉牛生産者、管内農業団体関係者、流通業界関係者、消費者団体関係者、大学・試験研究機関関係者 約140名

実行委員会：榛澤保彦、嶋村義文、左 久、花房俊一、佐藤幸信、青山次郎、奈良岡武任、内藤順介

事務局：

連絡先：（特非）環境リサイクル肉牛協議会 理事 花房俊一  
〒080-0047 帯広市西17条北2丁目44-10北の牧場舎  
Tel/Fax:0155-66-5159 : 090-5198-4090 e-mail: kanrikyo@e-beef.jp

シンポジウム申込み先：

（地独）道立総研機構 畜産試験場 肉牛G 佐藤幸信  
Tel:0156-64-5321 Fax: 0156-64-3212  
e-mail: satou-yukinobu@hro.or.jp